

# KOCV news

http://kocv.jp e-mail:info@kocv.sakura.ne.jp

## どうでもいいこと

H7/3 コスタリカ 西山英治  
夕焼け空、そして静かな海に隠れてゆく大きくて真っ赤な太陽を見ている時間は、私の好きな時間です。頭の中には何もなくて、大きな船がゆっくりと動き、ねぐらへ帰る鳥達も過ぎ去って行きます。一方、巷は相変わらず騒々しいですが、どうでもいいことも多くあります。どうでもいいことに振り回されている時間とエネルギーはもったいないと思いませんか？それよりは、自分の好きな時間を少しでも多く持つほうが人生楽しいですよ！

## 通常総会2008 開催される

高野忠裕(H7-1 ラオス)

6月8日(日)に無事KOCV通常総会が終了しました。JICA横浜の1階会議室にて13:00から開始して会長や来賓の方のあいさつの後、平成19年度事業及び会計報告、KOCVパッケージで助成したパナマの「チャカラ」現地調査報告、平成20年度事業予定が承認されました。

今年度は「使ってください活動支援費」を新たに予算化しました。会員の方が、自発的にやりたいと考える活動をKOCVでは、ヒト・モノ・カネ・ジョウホウの面でサポートを行います。企画が出せる方は出来る限りこの予算を適用する予定ですので、アイデアがある方はどんどん手を挙げてください。

15:00からは外国籍県民かながわ会議委員の葉 鳳英(ようほうい)さん、多並ノビーさん、トルオンティウイチャン(ベトナム)さんをお招きして「多国籍社会 KANAGAWAへ変革の時・協力隊経験は内なる国際化にどう活かせるか」～多文化共生に向けて外国籍県民の論客が本音を語る～と題して公園頂き3グループに分かれてディスカッションを行いました。

### 平成20年度青年海外協力隊神奈川県OB会スタッフ

役職	氏名	隊次・職種	住所
会長	西山 英治	7-3 コスタリカ・電気機器	相模原市
副会長	吉永 加那	13-3 コロンビア・栄養士	相模原市
副会長	中西 雅美	6-3 パナマ・プログラムオフィサー	藤沢市
副会長	畦地 崇敬	14-1 ブルキナファソ・植林	横浜市港北区
運営委員	柳本 昌宣	9-3 マレーシア・建築	横浜市金沢区
運営委員	若狭 健一	9-1 パナマ・食品加工	相模原市
運営委員	霜村 忠	8-1 ホンジュラス・養護	海老名市
運営委員	奈良 貴子	11-1 ケニア・ポリオ対策	横浜市戸塚区
運営委員	伊藤 千晶	11-3 メキシコ・家政	相模原市
運営委員	小島 海治	10-1 トンガ・音楽	大和市
事務局長	高野 忠裕	7-1 ラオス・建築見積	横浜市金沢区
事務局員	光田 大輔	11-3 ブータン・コンピュータ	横浜市港北区
事務局員	長谷川 真	63-1 ベルギー・工作機械	大和市



### KOCV2008年度(平成20年度)収支予算(案)

青年海外協力隊神奈川県OB会 事務局 作成:2008.4.1				
収入の部				
項目	19年度決算	20年度予算	増減	備考
1 前年度繰越金	237,952	78,345	-159,607	
2 会費収入	5,540	300,000	294,460	寄付金控除の予算、KOCV基金への繰入は年度末に協議
3 支援金収入	1,092,000	1,242,000	150,000	
3-1 JICA	150,000	300,000	150,000	
3-2 神奈川県	150,000	300,000	150,000	
3-3 JOCA	642,000	642,000	0	共同交通費
3-4 JOCA	150,000	150,000	0	組織強化促進費
4 事業収入	123,750	250,000	126,250	
4-1 あーすフェスタ	72,450	50,000	-22,450	売上
4-2 KOCV総務委員会	0	10,000	10,000	春、秋2回開催
4-3 横浜国際フェスタ	35,100	30,000	-5,100	売上
4-4 グローバルフェスタ	0	30,000	30,000	
4-5 市民活動フェスタ	0	30,000	30,000	
4-6 やま国際交流フェスティバル	16,000	30,000	14,000	
4-7 協賛隊祭り	0	20,000	20,000	
4-8 アプリカ体験～来て見て触って～	0	50,000	50,000	
5 銀行利息	688	1,000	312	
6 KOCV基金から購入	0	150,000	150,000	
当期収入合計(除く繰越金)	1,221,978	1,943,000	721,022	
収入合計	1,459,930	2,021,345	561,415	
支出の部				
項目	19年度決算	20年度予算	増減	備考
1 広報事業費	439,238	600,000	160,762	
1-1 KOCVニュース4月号	135,534	250,000	114,466	
1-2 KOCVニュース11月号	241,855	250,000	8,145	
1-3 各種システム運営・整備	14,384	50,000	35,616	HP
1-4 ビーチクリーンアップ	47,475	50,000	2,525	主催事業
2 総務事業費	219,535	560,000	340,465	
2-1 経費やまなみ等の行事支援	4,520	0	-4,520	
2-2 協賛隊との交流費	11,000	10,000	-1,000	
2-3 ふれあいネットワーク	16,640	50,000	33,360	主催事業
2-4 グローバルフェスタ	87,060	100,000	12,940	主催事業
2-5 KOCVパッケージ	100,315	100,000	-315	主催事業
2-6 使ってください支援金	0	210,000	210,000	KOCV基金及び寄付金から贈
2-7 社行会	0	90,000	90,000	
3 教育事業費	0	50,000	50,000	
3-1 地球生活体験学習セミナー	0	50,000	50,000	
4 一般事業費	329,207	370,000	40,793	
4-1 あーすフェスタ	77,397	70,000	-7,397	主催KIF あーすプラザ
4-2 KOCV総務委員会	0	10,000	10,000	
4-3 横浜国際フェスタ	71,044	80,000	8,956	主催 横浜国際フェスタ組織委 桜木町
4-4 グローバルフェスタ	69,046	60,000	-9,046	主催 グローバルフェスタ実行委 日比谷公園
4-5 市民活動フェスタ	0	60,000	60,000	
4-6 やま国際交流フェスティバル	107,720	30,000	-77,720	大和駅前
4-7 協賛隊祭り	4,000	60,000	56,000	広尾、地球ひろばで開催
5 組織強化費	252,555	245,000	-7,555	
5-1 関係団体への謝金費	45,000	45,000	0	YNN-5,060 JOCA-30,000 KIF-10,000
5-2 関係者への謝金費	54,000	50,000	-4,000	主幹 長野 長野
5-3 定例会	52,910	100,000	47,090	年12回開催
5-4 KOCV通常総会	100,525	50,000	-50,525	未償謝金・交通費
6 事務経費	25,784	100,000	74,216	事務用品費
7 予備費	0	50,000	50,000	
8 手数料	6,255	10,000	3,745	備込・払込
支出合計	1,272,554	1,985,000	712,446	
次年度繰越金 = 収入合計 - 支出合計	2,021,345	1,985,000	36,345	KOCV基金積高(150,000)

### 平成20年度事業予定(案)

月	日	事業名	場所	主担当
4	19	協力隊まつり(～20日)	広尾	畦地・西山
	26	定例会	JICA横浜	事務局
	30	KOCVニュース発行	横浜	高野
5	10	外国籍かながわ県民会議委員と打合せ	本郷台	事務局
	17	協力隊帰国報告会	JICA横浜	福岡・高野
	17	あーすフェスタ(～18日)	本郷台	西山・吉永
	24	中学生エッセイコンテスト担当者会議	広尾	竹内
	24	JOCA「平成20年度第1回評議員会」・「第25回通常総会」(～25日)	広尾	西山
	25	定例会(以下毎月1回)	JICA横浜	事務局
	29	日AU協賛・東京都・日本経団連・外務省共催「セブション」	横浜	河野
6	8	通常総会・講演会	JICA横浜	事務局
		20年度1次隊派遣隊員との社行会	横浜	高野・福岡
7	下旬	ビーチクリーンアップ作戦(海岸清掃活動)	辻堂	中西・西山
8		帰国歓迎会	横浜	福岡・事務局
9		20年度2次隊派遣隊員との社行会	横浜	高野・福岡
		地球生活体験学習セミナー(プレゼンスキルアップ)	横浜	高野
		JICAボランティア家族連絡会	横浜	高野
10		中学生エッセイコンテスト2008一次審査	横浜	竹内
		協力隊秋祭 応募促進	横浜	JICAと協議
		国際交流ふれあいネットワーク	横浜	西山
		グローバルフェスタ(～6日)	日比谷	畦地
		横浜国際フェスティバル	横浜	中西・若狭
11		KOCVニュース発行	横浜	高野
		就労研修生との交流会	横浜	高野
12		20年度3次隊派遣隊員との社行会	横浜	柳本
		JOCA評議員関連プロジェクト会議	長野	西山・事務局
1	24	JOCA平成19年度第2回評議員会、新春交流会	広尾	西山
		(～25日)		
2		中学生・高校生エッセイコンテスト表彰式	横浜	福岡・事務局
		ハイテクノロジー見学ツアー	横浜	西山・竹内
3		20年度4次隊派遣隊員との社行会	横浜	畦地
		市民活動フェスタ	横浜	高野
		やま国際フェスティバル	横浜	吉永
			大和	長谷川
年間を通して実施		ホームページ	インターネット	光田
		ML管理運営	インターネット	光田・高野
		定例会	JICA横浜	事務局
		KOCVパッケージ		事務局
		使ってください活動支援費		事務局
		森林づくり定着型ボランティア		スタッフ
		東アジア青少年招聘(事業を検討)		スタッフ

### 新規事業

## 使ってください活動支援費

概要：会員が主体的に企画実施する活動(他団体主催でも可)に対して、支援および助成を行う。最低2名参加するものを対象とする。目的(ねらい)：会員の自発的な活動への支援すると共に、OV会活動の活性化や会員同士の繋がりの強化を促す。・「KOCV」と「活動の担当者」の役割及び支援体制の明確化。・在的にOV会活動を行いたい会員の掘り起こしを行う。活動地域の偏在を解消する。・会員への「活動プランの周知」と「活動内容の報告」を徹底する。・年度途中に企画された、総会未承認の活動へフレキシブルに対応し易くする。

支援体制：1 案件につき30,000円以内の助成を行う。参加案内を極力配布し会員の参加を呼びかける。(「KOCVニュース」・ML・DM 送付用ラベル・実践者ネットワークを活用)

予算措置：主担当1名で年間2件まで、1件あたり30,000円以内の利用可。今年度は総額210,000円程度、先着順。応募方法や条件等は事務局をお問い合わせ下さい。極力適用するようにします。

### 講演会の感想

#### 西山英治(H7-3 電気機器 コスタリカ)

総会&講演会 お陰様で盛況のうちに無事終了することができました。1F会議室が狭いぐらいに感じました。初めて総会&講演会に出席されたOB、OGにも 良い刺激になったのではないのでしょうか。

特に講演会では 3名の方々それぞれのお話はインパクトがありました。私が、感じたこと印象に残ったことは下記の通りです。

1. 葉さん：行政に対していろいろ苦情を言い要求ばかりするのはなく我々も何が出来るかを考えてそれを実行していかなければならない。
2. ノビーさん：(いささか緊張しておられました。)みんなの前で話す日本語は上手に話せない。また、電車に乗るのは難しく、20年以上上っているがまだに電車に乗るのはとても怖いです。
3. チャンさん：難民として日本にやってきた当時の苦労話はとても迫力がありました。そして一生懸命に日本の生活に溶け込もうとするその姿が手に取るようによく分かりました。

### ノビーさんとのグループディスカッション

#### 前田 裕司 (H5-2 エクアドル)

先日は神奈川に来て始めて総会に出席いたしました。会場や資料、事前打合せ等、ご尽力いただき、ありがとうございました。普段、山の中で暮らしている自分のみなとみらいの夜景に見とれていました。しかし、それ以上に講演会の御三方のお話は印象的でした。さて、表記の件、初めは中西さんの最初の問い掛けに戸惑いを感じましたが、話が進んでいくうちに筋が見えてきました。皆さんの意見が聞けて、自分も一言言えて、参加した意義があったと自分なりに満足しています。あのグループディスカッションの中でノビーさんのリクエストに応える議論をするためにはノビーさんからもっと詳しい話を聞く必要があったのではないかと思います。また、そのためにはもっと時間も必要だったと思う。こんな感想を持っております。

#### 平泉(H10-2 PNG)

総会では有意義な講演に参加させて頂く事が出来ました。企画・準備頂いた関係者の皆様有難うございました。講演を聴いて外国人の方が遭遇する様々な問題を伺い知る事ができ、OVとして何らかの力になれないかなと思いました。各自が各々取り組むのも良いのでしょうか。それだけでも意味はあります。でも折角ベクトルを合わせたのですから、このような問題を抱える外国人の方にお役に立てるアイデアを、もう少し詰められたら良いと思います。



## 神奈川県森林づくり 定着型ボランティア事業

神奈川県では、県土の40パーセント近くを占める森林が手入れ不足などで荒廃が進み、「かながわ森林再生50年構想」を基本に、県民と一体となった森林づくりが推進されている。今回、その一環である「地域の森林づくり交流事業(新しい定着型ボランティア)」事業として、県民参加の森林づくり(森林保全)が実施されることとなった。JOCAでは、県から足柄上郡松田町寄(やどりぎ水源林で県から指定された7haの土地)の同事業を受託し活動を行っていく。KOCVとしても、主体的にこれらの活動に参加していく。

### 神奈川県森林づくり定着型ボランティア事業

## (やどりぎ水源保安林) 下見報告 西山英治(H7-3 電気機器 コスタリカ)

やどりぎ水源林下見の概略報告です。

1. 全体的な感想：神奈川県、JOCAそして地域の人達みんなが現状を変えて何とか良くしたいの思いがジワッと伝わって来る感じの一日でした。(幸い土曜は終日、雨は降りませんでした)現地の道案内には地元の方にガイドしていただきました。立派なヒノキの植林が大きく育っていました。また、水源林入り口では、「森林再生」と書かれた大きなノボリ旗が印象的でした。民宿(しおや)では、おばさんが仕事とはいえ、その笑顔がとてもすてきでした。夜の会合には地元選出県議員さん、そして町長さんもお見えになりました。松田町が一番困っているのは、「過疎化です」との島村町長の言葉が重かったです。
2. 全体的な計画：森林再生だけでなく、過疎化が進む町との交流を通して活性化につながる活動を望まれています。様々な人々が関わらなくては解決できるところではありません。OB会はその一つのグループという位置づけです。
3. 具体的なプログラム：9月27日にオータムキャンプを開催してまず現状を見ていただく(この時、密集しているヒノキの伐採も実施します。ヒノキの使い道のアイデア募集します)10月18日(土)：やどりぎ水源林のつどい。この地域の再生に関わっている全てのグループが集まって、交流を行い、今後のことについて話し合います。まだまだ書ききれません。続きは後程

## オータムキャンプ

#### 畦地崇敬(H14-1 植林 ブルキナファソ)

9月27日(土)オータムキャンプが行われました。イベント後、西山さん、小島さんと民宿しおやに泊まりました。料理は大変美味しく、おなかも減っていたこともありもりもり食べてしまいました。イベントでは皆さんに満足いただけたようでよかったのですが、これもJOCAのバックアップ、そして榎本さん、前田さんのご協力があればこそだと思います。反省点としては、間伐での作業にて2グループに分けた際、お互いの作業場所をあと20mほど離してやるべきだったかと思いました。

#### 高野忠裕(H7-1 建築見積 ラオス)

私もオータムキャンプに参加しました。「森の身体検査」と称して範囲を決めて木の高さや太さを測定し、全体の傾向を見たり。檜の間伐やその間伐材を用いて、簡単な工作というか輪切りを行いました。二本松訓練所で檜の苗を植えた事がありました。めったに林業体験は出来ないで、私及び私の家族たちにとっては貴重な経験になりました。これら企画運営に当たられたワーキンググループの皆様、大変ご苦労さまでした。そして、今回の趣旨は、来年度以降の森林プロジェクトを見据えての準備的な要素があります。振り返りを確実にし、一般の方の参加者を多く募って同種のイベントを行うに当たっての目標やリスク等をきちんと洗い出していきたいと思いました。

## 寄水源林オートムキャンプ

報告・反省・課題

前田裕司(H5-2 土壌肥料 エクアドル)

### わくわくドキドキ「森の身体検査」

- 1 集合地点(休憩舎)から現場までの道のりが遠く(徒歩20分)、現場での作業時間が想像以上に削られてしまった。そのため、樹高などのデータを取るだけで時間になってしまい、肝心の計算が十分にできなかった。今後、川から林地へ入っている経路を作ればこの問題は解消できる。
- 2 標準地の枠づくりで子どもに巻尺を引っ張ってもらったが、子どもが参加できる場面が少なかった。参加者の興味、年齢層に合わせた進行ができるように工夫が必要だ。
- 3 標準地を2箇所設置したが、成立本数や木の大きさに若干の差が認められた。あと何箇所か設置してより正確なデータを取り、10年間に渡って調査・観察していきたい。

### びっくりドキ「森の水質調査」

- 1 終了時間が迫り、予定していた水量調査まで進めなかった。また、2班のうち、1班は時間の都合で実施できなかった。しかし、参加者は自分自身で検査結果を出し、その結果に興味深かった。
- 2 大人向けに説明してしまったため、子どもは別の遊びに行ってしまった。バックテストは色の変化もあり、また、水温や気温の計測は簡単に出来るので、子どもへ参加を促したい。
- 3 参加者の自宅の水道と寄水源林の水が繋がっていることを認識してもらったことが大切だと思った。このような意味でも森林の整備は重要である。
- 4 pHメータと電気伝導度計は水質だけではなく、土壌にも応用できるので森林内の土壌も継続的に調査してみたい。

## 横浜国際フェスタ報告

中西雅美  
(H6-3 プログラムオフィサー パナマ)

10月25日、26日、横浜フェスタにKOCVとしてパタコン売り場を出店しました。当日は天候に恵まれ、2日間で63000人の来場者があったそうです。

OB会ブースは、角ブースだったこともあり、壁5面を使って、日下さんと伊藤さん(婦人服、家政)デザインで、色鮮やかなパタコンのポスター、協力隊のバネルとチャカラ、セミナーちらし、と飾りつけとても賑やかなブースになりました。常時3人は店番をしていただき、パタコン(揚げバナナ)も大盛況で、両日ともお昼の3時には売り切れしました。

セミナーは、20人の定員に12人とまずまずの集まりで、特筆すべきは中学生3人と高校生1人のグループ、神奈川県青少年協会海外派遣団(今夏ベトナム派遣)のみなさんが参加してくれたことです。彼らは熱心にメモを取り、活発に質問をしてくれました。色鮮やかなアフリカの写真をしながら、井戸に対する質問や、一森に触れることで大人も子どもも気持ちが豊かになる—ということに対して、都会での緑についての質問、森の役割を痛感したという畦地さんの実家での洪水の話に対する質問、など多感な思いをぶつけてくれました。

パタコン終了後は、チャカラ(パナマのフェアトレード商品)を並べて、販売させていただきました。15点中9点も売れました。ありがとうございました。

その他にお手伝いいただいたみなさま、どうもありがとうございました。西山さんは引越途中で来ていただき、佐藤元一さんは奥さんが体調不良なのに、ご本人だけでも来ていただき、申し訳ないです。吉永さん、青バナナ仕入れや仕込みの段階から、お疲れ様でした。田口さん、光田さん、高野さん、いつもありがとうございます。木村さん、最後までつきあってくださり、助かりました。若狭さん、パタコンの包み紙仕入れと郵送ありがとうございます。長谷川さん、いつもたくさん買っていただき、ありがたいです。

これからもどうぞよろしくお願いします。

そうそう追加のエピソードとして、エクアドルのバナナを飾っていたこともあってか、ティーンエイジャーの美人エクアドル女性がOB会ブースを訪ねてくれました。彼女は、今年4月に日本に来て、まだ日本語がうまく話せないのですが、会場内でずれ違った人がパタコンを食べていて、思わず懐かしくて興奮して、「どこで買ったのですか?」と尋ねて、OB会ブースを探しあててきたそうなのです。



## ビーチクリーン (辻堂海岸)



### 中西雅美(H6-3 プログラムオフィサー パナマ)

ビーチクリーンが無事終了しました。

参加者は、スタッフ8名、OBOG4名、一般参加者16名合計28名で行いました。前回の50名に比べると少ないですが、縁故のない一般参加者は去年と同じくらいの人数でした。「ぼど」と「辻堂タイムズ」をみてきてくれたそうです。

今回は協力的な助人ができたので(牧野さんOG辻堂在住)、広報の輪が広がります。見える範囲はすっかりきれいになりました。でも、畦地さんいわく、ごみの多い場所を見つけたようで、来年はそこを重点的にしたいと思います。

どうもお疲れ様でした。

### 西山英治(H7-3 電気機器 コスタリカ)

8月2日(土)10時より辻堂海浜公園で毎年恒例ビーチクリーンが行われました。

たいへんお疲れ様でした。

「ゴミが落ちているからごみ拾いをしましょう」という極単純な作業ですが今回で5回目(5年目)でした。また来年もよろしくをお願いします。

## エッセイコンテスト2008

高野忠裕(H7-1 建築見積 ラオス)



10月19日(日)に甲子園等で有名なY校にてエッセイコンテスト一次審査が行われました。

今回は応募作品が全国的に大幅増の51666件もありました。神奈川においては若干多かった程度ですが、それでも2301件の応募がありました。その作品を19人の審査員で審査を行いました。

今回は環境がテーマだっただけに、地球温暖化や京都議定書の話が多く取り上げられていましたが、協力隊やJICAの事にはあまり触れられていなかったような印象があります。

神奈川県においてははもともと応募作品が多いので審査員をいかにして確保するかという問題がありますが、今年に限っては全国的な応募者増に乗り遅れている様な気がします。少し応募動機をしたり、協力隊の体験を伝える事が必要ではないかと感じました。



## JOCA関東ブロック会議

小島海治(H10-1 音楽 トンガ)

11月22日~23日に長野市国民宿舎永保荘で行われた評議員ブロック会議(関東)が行われました。

神奈川県からは、西山(大阪から駆けつけられました)、畦地、長谷川、高野、吉永、小島の6名、小島の車で出発しましたが、途中事故渋滞に巻き込まれ、開催から15分遅れで到着しました。

始めは、「長野五輪1校1国活動とその後」長野国際親善クラブ会長小出博治氏の講演が行われました。小出氏は長野五輪1校1国運動の提唱者で、彼の考え、活動は、十分我々協力隊OBの活動趣旨とも合いとても参考になりよい講演だったと思います。

僕はブロック会議に参加するのは初めてで、22日と、23日午前約2時間ずつ行われましたが、非常に熱く、かつ陰鬱なムードにならず、友好的に会議が進められました。

### 1日目

各県の上半期OB会活動報告:各県ともそれぞれ独自の活動を行っているのがわかりましたが、この会議を通じて、

・あらかじめブロック会議にでる前に何を話し合えるかが分かればよかった。

・OBとしてブロック会議を通じて何ができるか。これからのOB会についてどうあるべきか。

・協力隊の経験を伝える場を増やしていくためにどうしたらいいか。などといった意見が出て、結局答えが出るにはいたらなかったと思いますが、とても活発な意見が飛び交いました。

### 2日目

まず始めに駒ヶ根研修所所長山形茂生氏の話。次に、JOCAの活動及び会計中間報告。

・エッセイコンテスト・キャラバン・実践者ネットワークで今後いかに人員を確保できるか。・ポスターキャンペーン…1月の評議委員会に持ち越し。

など盛りだくさんの内容が話し合われました。

特に、九州と東北の2地区は終了しているキャラバンについては来年度は関東に来ます。今後どのような形で宣伝活動を行っていくべきか、別な場で話し合われます。

会議終了後は、協力隊OBが経営する農家に行き、りんご狩りをしながら、国際パートナーシップ事業研修員、清泉女学院大学学生その他大勢の方々と交えての交流会が行われました。餅つきあり、おでん、豚汁その他たくさんの料理を野外で食べながらとても楽しい会でした。

以上ごく簡単ですが報告を終わりますが、今回僕は初めての参加でしたが、とても有意義で、楽しい会だったと思います。来年もできたら参加しようと思います。

## 基調講演会

### 「一校一國運動 今も引き継がれる精神」

西山英治(H7-3 電気機器 コスタリカ)

ボスニアヘルツェゴビナと交流を持とうとした長野県の田舎町でのプロジェクトを紹介したいと思います。

世界各国からはるばるやってくる見知らぬ国々の人々との交流を長野オリンピックというチャンスを捉えて、持続的に交流を持とうという「一校一國運動活動」、なんとその対象は地元の小中学校なのです。長野オリンピックから10年を経た今でも交流を続けている小学校があるのです。

このプロジェクトの歴史を振り返れば、最初の大きな壁は学校長の説得でした。この企画を発表した時は全員が反対だったのです。一校一校訪問して校長と話し合いを持ちましたが、なかなか進展せず、時間だけが過ぎていったのです。そしてやっと説得できたときの言葉は「私とかあなたは今から生きて10年、20年です。しかし、子供達は50年以上あります。この子供達の教育に日本の将来がかかっているのです。」

これだけの事が言えるのは、とても強い信念があるからです。そして長い道のりの途中では、弱気になることもあったようです。それを支えたのは、遠い国から届いた一通の手紙、そこに綴られた感謝の言葉に何よりも勇気付けられたのです。

補足をすれば、ボスニアヘルツェゴビナだけでなく、長野オリンピックに参加した全ての国に対してひとつの小中学校が割り当てられました。一方、地雷に苦しんでいるという国情を知った子供達は地雷撤去の募金を集める活動にも発展しています。

さらには、今年の北京オリンピックでもこの「一校一國運動活動」は引き継がれています。

このプロジェクトの企画と実行したのは長野国際親善クラブであり、その中心人物は小出博治会長です。とても感動しましたので、みなさまにもお伝えしたくて書かせていただきました。少しでも、講演会の内容が伝われば幸いです。

プロジェクトXのような文章になり、出来すぎた話のように思われるかもしれませんが、しかし、フィクションではなく現実の物語です。

遠い異国から受け取った感謝状を読んで、小出さんは一人になった時涙が流れて止まらなかったそうです。車を運転している時、風呂に入っているときだそうです。

長年の苦勞の重みとその苦勞が実った喜びetcご本人でしか味わえない感激だったのでしょう。一校一國運動はインターネットのHPで詳しく見ることが出来ます。